

5日 水曜

出エジプト



13:1 主はモーセに告げて仰せられた。
13:2 「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである。」

13:3 モーセは民に言った。「奴隷の家であるエジプトから出て来たこの日を覚えていなさい。主が力強い御手で、あなたがたをそこから連れ出されたからである。種を入れたパンを食べてはならない。

13:4 アビブの月のこの日にあなたがたは出発する。

13:5 主があなたに与えるとあなたの先祖たちに誓われたカナン人、ヘテ人、エモリ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地に、あなたを連れて行かれるとき、次の儀式をこの月に守りなさい。

13:6 七日間、あなたは種を入れないパンを食べなければならない。七日目は主への祭りである。

13:7 種を入れないパンを七日間、食べなければならない。あなたのところに種を入れたパンがあってはならない。あなたの領土のどこにおいても、あなたのところにパン種があってはならない。

13:8 その日、あなたは息子に説明して、『これは、私がエジプトから出て来たとき、主が私にくださったことのためなのだ。』と言いなさい。

13:9 これをあなたの手の上のしるしとし、またあなたの額の上の記念としなさい。それは主のおしえがあなたの口にあるためであり、主が力強い御手で、あなたをエジプトから連

れ出されたからである。

13:10 あなたはこのおきてを年々その定められた時に守りなさい。

初子の聖別によって、イスラエルは初子が特別であることに強い意識を持ったでしょう。それはまさにイエス様が神の初子ということのできる”ひとり子”である事実につながります。この特別な方が私たちの身代わりとなってくださったのです。

「種を入れたパン」は不純物によって全体が変わってしまうことを表しますが、そのようなことのないようにとの視覚教材です。このように主への純粋な信仰を持ちましょう。自己中心や自己保身や打算を交えずに、主のみこころを求めましょう。また福音に人間的な妥協の混ぜ物をしないように気をつけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

